

## 第3回 木津川市総合計画審議会

日時：平成30年3月20日（火）

午前10時～

場所：木津川市役所 第2北別館

### 次 第

#### 1. 開 会

#### 2. 議 事

##### （1）報告事項

- ①これまでの審議会結果
- ②市民ワークショップ結果

##### （2）審議事項

- ①第2次木津川市総合計画構成案
- ②まちの将来像

##### （3）その他

#### 3. 閉 会

# 木津川市総合計画審議会 議事の流れ・主な意見

1. 議事の流れ
2. 前回審議会における主な意見

平成30年3月20日  
第3回 木津川市総合計画審議会

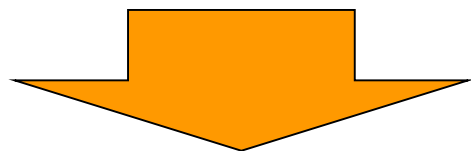


木津川市

# 1. 議事の流れ

## 第1回 (H29.7.29)

- ①会長・副会長選出
- ②諮問
- ③確認事項  
本審議会運営（審議会設置条例）、第2次総合計画策定方針
- ④報告事項  
第1次木津川市総合計画後期基本計画、木津川市の概況
- ⑤審議事項  
市民・中学生アンケート調査



市民アンケート調査：配布数5,500件、回収2,055件  
中学生アンケート調査：配布数745件、回収730件  
第1次総合計画WT施策評価

## 第2回 (H29.11.28)

- ①報告事項  
生涯未婚率、児童・園児数内訳、地域ワークショップ  
公共施設等総合管理計画、都市計画マスタープラン後期計画
- ①確認事項  
市民・中学生アンケート調査結果  
第1次木津川市総合計画WT施策評価結果
- ②審議事項  
第2次木津川市総合計画におけるまちの将来像

## 2. 前回審議会における主な意見

---

### ①歴史遺産や文化財について

活用が必要。観光協会など関係機関とのネットワークをつくり、受け入れ体制を整備すべき。  
→文化部門と観光・産業・経済振興がバランスよく連携することが大切である。

### ②子育て支援について

市民の生活実感レベルでの充実に努めるべき。教育は、地域振興や活性化にも関連する。  
3世代交流、環境保全、環境教育、子どもの心を育むため、自然体験型学習施策に取り組むべき。  
児童・生徒が減少する地域もある。地域毎に増減を把握する必要がある。

### ③まちの将来像について

木津川市は、人口増加、豊かな自然・文化、学研都市などポテンシャルのあるまち。  
また、人口が増加する地域と減少する地域があり、これらの認識と双方の課題解決が必要。  
まちづくりは、人が動き、活動することである。主体をはっきりさせる必要がある。  
人口が増加するまちは稀であり、発信性のある将来像にするべき。  
木津川市の場所はあまり知られていない。  
将来像は、単なるキャッチフレーズではなく、市民の希望のキーワード。

### ④その他

市民を巻き込んでいくリーダーとなる職員の育成が必要。  
行政にしかできない役割を示すことも必要。

## 【資料1－2】

## 地 域 別 児 童 数 推 移 【 小 学 校 】

各年5月1日現在

年度		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
木津地域	学研地域	2,180	2,314	2,442	2,625	2,744	2,856	2,931	3,071	3,236	3,289	3,384
	その他	761	771	797	801	838	846	927	892	912	922	956
	計	2,941	3,085	3,239	3,426	3,582	3,702	3,858	3,963	4,148	4,211	4,340
加茂地域	南加茂台	259	249	236	238	228	236	228	214	222	200	181
	その他	467	490	505	473	471	448	447	443	423	397	373
	計	726	739	741	711	699	684	675	657	645	597	554
山城地域		475	458	486	502	495	499	509	528	521	525	519
合計		4,142	4,282	4,466	4,639	4,776	4,885	5,042	5,148	5,314	5,333	5,413

※ 学研地域：高の原小学校、相楽台小学校、木津川台小学校、梅美台小学校、州見台小学校、城山台小学校

## 地 域 別 生 徒 数 推 移 【 中 学 校 】

各年5月1日現在

年度		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
木津地域	学研地域	350	406	504	571	864	979	1,080	1,145	1,213	1,244	1,295
	その他	706	690	672	624	386	374	351	392	408	454	469
	計	1,056	1,096	1,176	1,195	1,250	1,353	1,431	1,537	1,621	1,698	1,764
加茂地域		333	300	299	327	348	357	334	329	330	333	324
山城地域		245	257	235	222	211	222	233	226	242	244	244
合計		1,634	1,653	1,710	1,744	1,809	1,932	1,998	2,092	2,193	2,275	2,332

※ 学研地域：木津第二中学校、木津南中学校

# 第2次木津川市総合計画に係る 市民ワークショップ結果

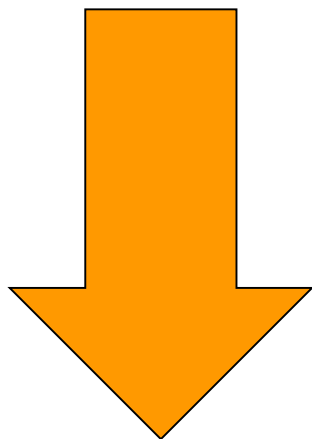
平成30年3月20日  
第3回 木津川市総合計画審議会



木津川市

# 1.開催概要

- 1、日 時 : 1月26日(金) 午後3時40分～4時30分
- 2、場 所 : 市役所4階会議室(4-4)
- 3、参加者 : ふるさと応援事業補助金採択団体(11団体) 19人
- 4、テーマ : 10年後、20年後に市民が幸せに暮らせる木津川市とは



## 【ふるさと応援事業補助金】

木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進を目的に、誰もが「住みたい・住み続けたい・住んでよかった」と実感いただけるような活力と魅力あるまちづくりを目指すため、さまざまな知恵、発想及び郷土愛等を活かした提案者が主体となって取り組む事業を支援するもの。

【補助額】 1年目250万円、2年目150万円、3年目100万円

## 【平成29年度採択事業数】

2年目／3年間 9事業(子育て、情報発信、観光、婚活など)

1年目／3年間 4事業(農産物加工、茶業活性化、里山活用)

## 【主な意見】

- ・自分たちのまちを知り、老若男女、市民や来訪者、産業などあらゆるものが交わりあい、自然、産業、人、食など今あるものを活かしつつ、資源を生み出していくことが必要。  
このことで、木津川で働き、助け合いながら、安心して暮らしていける地産地消のまちにする。
- ・自分たちのまちが好きになり、誇りをもって「ふるさと木津川」と思えるようなまちを目指す。

## 2.将来像と意見

将 来 像	意 見
ふるさと木津川	ふるさと（我故郷）
	私の「ふるさと木津川市」になって欲しい。 農業、林業と、子育て、遊びを結びつけて 自然の豊かさを残す。
	自分のまちを知る。好きになる
資源を生み出し、 活かす	里山の有資源化 定住促進し、 高齢化・人口減少に歯止めを！
	里山と循環するまち （里山の楽しみ、仕事づくり）
	里山から循環する。
	散歩して子供と里山に入れる環境を 守って欲しい。
	山の自然を取り戻したい。
	田んぼを守る。
	自然が美しい町 特に竹林。
	城山台の公園の一角に鎮守の森を。
	古さを活かす、農業を活かす。
	地産地消（地元においしいものがある。 ふるさとの味）
	地域、地産野菜を食卓に取り入れる事が 出来る様な情報の共有が出来る事。
	子どもたちが自然環境を学べるような教育 環境。

将 来 像	意 見
誰もが安心して 暮らす	お互いが助け合える町
	高齢者に優しい町づくり
	高齢者が安心して暮らせる町づくり
	子育てしやすい町づくり
	ほっとするまち
木津川で働く	買い物の足の確保
	学研企業との連携で仕事づくり
	地域への人材の確保・外部人材の導入。 定住し、活動する人材づくり。
	雇用の場の確保
	女性が楽しんで仕事出来る様な場があるまち
交流のまち	京都・大阪・奈良のハブになる街。≡交流に積極的な まち
	市民交流・産業交流
	木津川市の町自慢 まちのいいところ探し
	河川敷に公園や野球場など、人が集える場を。
	高齢者と幼児をつなげたり、交ざり合うような場づ くりをする。
	恭仁京、鹿背山、当尾等々歴史遺産、文化遺産、自 然環境里山等の保護に加え、観光資源として市外か ら客を呼べるしくみ作りを整える。
品格のあるきれ いなまち	まち中に緑を！！
	品格のある景観づくり 街路樹・特徴ある景観づく り
	景観は古さと新しさをキッチリ分ける。



# 第2次木津川市総合計画 構成案

平成30年3月20日  
第3回 木津川市総合計画審議会



木津川市

# 1. 第1次総合計画構成

## 第1次木津川市総合計画【総論】

- 1 総合計画策定の背景～時代の潮流～
- 2 総合計画の趣旨（目的、構成、期間、策定の視点）
- 3 総合計画の基礎条件（人口、産業、財政）
- 4 木津川市の状況（現況、地域特性、市民意識）

## 【基本構想】

### 1 まちづくりの基本原則

- ①協働 ②情報共有 ③参加・参画

### 2 まちの将来像

#### （1）将来像

**水・緑・歴史が薫る文化創造都市 ～ひとが耀き ともに創る 豊かな未来～**

歴史・文化や自然・  
環境を活かした美し  
いまちづくり  
・地域資源  
・歴史と文化  
・水と緑の自然と環  
境

知の集積を活かした  
新しいまちづくり  
・学研と生活産業の  
調和  
・知の集積と活用  
・世界発信学術・産  
業

豊かな市民生活を実  
現するまちづくり

- ・安心・安全
- ・保健医療福祉
- ・生活基盤、雇用

市民が主人公のまち  
づくり

- ・人と文化の交流
- ・参画と協働

#### （2）将来都市構造（ゾーンと拠点）

#### （3）将来人口

# 1. 第1次総合計画構成

## 【基本構想】

### 3 まちづくりの基本方針

(1)個性を活かした魅力ある地域文化の創造

(2)地域力を活かした産業・事業の創造

(3)誰もが安心して暮らせる福祉都市の創造

(4)豊かな心を育む教育・文化の創造

(5)連携を強め地域を支えるネットワークの創造

(6)環境と調和した持続可能なまちの創造

(7)まちづくりへの参画と協働の創造

### 4 まちづくりの重点戦略

①関西文化学術研究都市まるごと活用戦略

②木津川市文化創造戦略

③安心・安全の暮らし実現戦略

④まちぐるみの子育て・教育環境づくり戦略

⑤地域間連携強化戦略

⑥環境保全・地球市民育成戦略

### 5 行政経営の方針

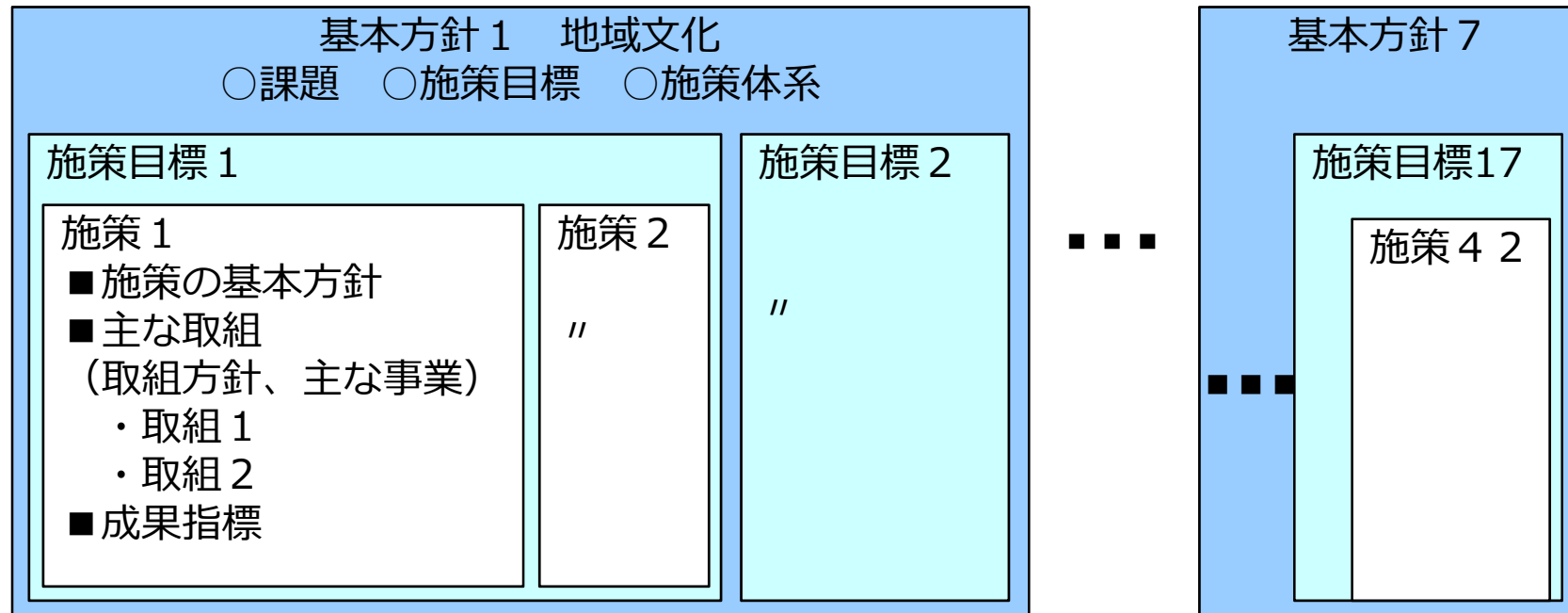
①地域経営の展開

②行財政改革の推進

# 1. 第1次総合計画構成

## 【後期基本計画】

まちづくり施策の方針と主な事業



まちづくりの推進

①財政収支見通し ②まちづくりの成果指標

## 2. 第2次総合計画 構成案

### 【序論】

- 1 総合計画策定の趣旨
- 2 総合計画の枠組み
  - ①役割
  - ②構成と期間
- 3 木津川市の現状と課題
  - ①現状と動向
  - ②時代潮流と課題



- 4 まちづくりの主要課題



- 5 市民アンケートの結果

### 【基本構想】

- 1 まちづくりの基本原則
  - 協働、情報共有、参加・参画
  - 自助・共助・公助と市民・行政の役割
- 2 まちの将来像
  - ・まちづくりの理念
  - ①将来像
  - ②将来都市構造
  - ③将来人口
- 3 政策の基本方針
  - ・取組みの姿勢
  - ①子育て・教育
  - ②健康・福祉
  - 
  - 
  - 
  - ⑦行政運営

### 【基本計画】

- 1 政策の基本方針
    - ①基本方針 1
      - (1) 施策 1
        - ・課題 ・方針
        - ・成果指標・関連計画
        - ・担当部署
    - (2) 施策 2
  - ②基本方針 2
    - 
    - 
    -
- 2 基本計画の推進
  - ①推進体制 ②進行管理

### 3. 第2次総合計画 骨子案

#### 1 まちづくりの基本原則

①参画、協働、情報共有によるまちづくり ②自助・共助・公助と市民・行政の役割分担による地域力の向上

#### 2 まちの将来像

##### (1)将来像

○まちづくりの理念

まちの成長期として、まちの魅力を伸ばし、将来世代に引き継げる持続可能な地域づくりをめざす

**豊かさを感じられる住みよさがある**

**新しい価値や魅力が常に生み出されている**

・くらしの充実 ・つながりと相互扶助

・創造力とチャンス ・交流 ・地域資源活用

**人口が増加しており、地域に元気がある**

・子育て世代が増加している ・社会システムの最適化

○将来像

○○○○の都市(まち) 木津川

##### (2)将来都市構造

拠 点:中心都市、都市、商業、観光

ゾーン:市街地、学研市街地、学研市街地整備

木津駅東市街地整備、田園共生、森林共生

軸 :広域交流、拠点・市街地交流

##### (3)将来人口

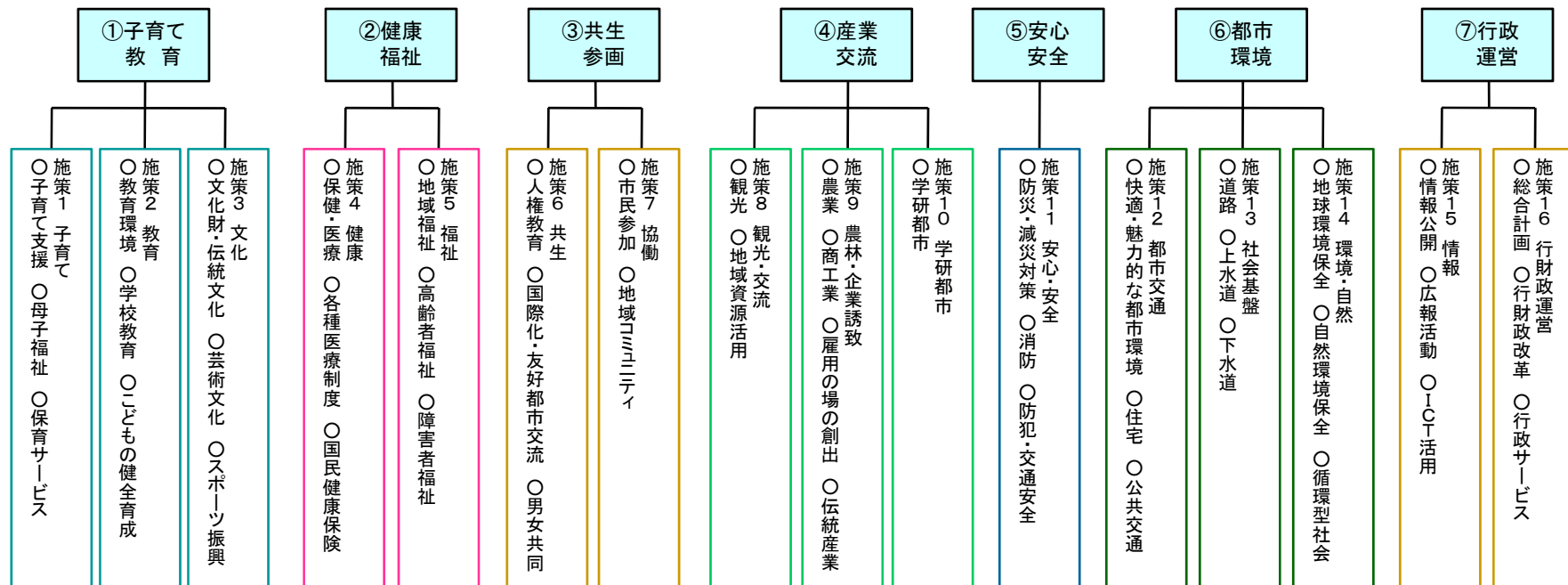
2019年～2028年人口

#### 3 政策の基本方針

○ 取組みの姿勢 ……………①市民とともに推進:市民の参画を得るため、市民との分担・協働を図り、積極的に成果・課題を情報提供します。

②質の高い施策の実現:市民満足度の高い施策実施のため、固定観念にとらわれず、創意工夫を重ねる。

③効果的・効率的に実施:限られた財源の中、市民生活への効果などから、真に必要な施策を実施する。



## 4. 政策の基本方針案

基本方針	政策分野	想定施策項目
ともに「学び」「喜び」「成長し」未来を力強く生きる子どもを育むまちづくり	①子育て	・子育て支援・母子福祉・保育サービス・児童虐待の防止
	②教育	・教育環境・学校教育・子どもの健全育成・生涯学習・人材づくり
	③文化	・文化財、伝統文化・芸術文化・スポーツ振興
誰もが生き生きと生涯元気で暮らせるまちづくり	④健康	・保健、医療・年金、各種医療制度・国民健康保険
	⑤福祉	・地域福祉・高齢者福祉・障害者福祉
一人ひとりが認め合い力を発揮できるまちづくり	⑥共生	・人権教育・国際化、友好都市交流・男女共同参画
	⑦協働	・市民参加・地域コミュニティ
人・資源・立地を活かし未来を拓く産業のまちづくり	⑧観光・交流	・観光・地域資源活用
	⑨農林・企業立地	・農業・商工業・雇用の場の創出・伝統産業
	⑩学研都市	・学研都市
災害などから市民を守り安心・安全に暮らせるまちづくり	⑪安心・安全	・防災、減災対策・消防・防犯、交通安全
快適で質の高い生活環境と豊かな自然に恵まれたまちづくり	⑫都市・交通	・快適、魅力的な都市環境・住宅・公共交通ネットワーク
	⑬社会基盤	・道路・上水道・下水道
	⑭環境・自然	・地球環境保全・自然環境保全・循環型社会
効果的・効率的な行政運営と市民に開かれたまちづくり	⑮情報	・情報公開・広報活動・ICT教育・情報セキュリティ
	⑯行財政運営	・総合計画・総合戦略・行財政改革・行政サービス・行政基盤 ・広域連携・組織、人材育成

# 第2次木津川市総合計画 まちの将来像

平成30年3月20日  
第3回 木津川市総合計画審議会



木津川市



# 1. まちの将来像の検討

## ■木津川市の特性（木津川市らしさ）

- ・ 恭仁京まで遡る古い歴史から関西学術研究都市までの新旧の融和
- ・ 里地里山、農地、木津川の豊かな自然環境と地域文化
- ・ 京都、奈良、大阪の中間で広域交通軸に恵まれ結節点となる立地
- ・ 魅力的な住環境整備と転入による全国でも有数の人口増加都市
- ・ 広域合併による多様性ある地域と一体性
- ・ 近郊農業、伝統地場産業と関西学研の先端的な産業機能

## ■木津川市のまちづくりの主要課題

- ・ 成長から持続へ向けた政策の転換
- ・ 子育て、若者定着へ向けた手厚いサポート
- ・ 価値観やライフスタイルの変化に応じた、つながり、コミュニティ、経済の構築
- ・ 市民の生命・財産を脅かすリスクへの対応
- ・ 地域魅力の再発見・再価値化・再構築による誇りや交流活動の醸成
- ・ 広域的立地環境を踏まえた地域の仕事、暮らし、文化づくり
- ・ 地域特性・課題に応じた都市の最適化、スリム化で持続的なまちづくり

## ■将来像に関する委員等意見

- ・ 安心、愛着、絆など、心の豊かさの希求
- ・ 活力、元気、輝きなど、前向きなイメージの打ち出し
- ・ 子ども、人を中心に据えた取組み
- ・ 自然、歴史文化、農など地域資源へのこだわり
- ・ 過去～未来、継承・持続など時間軸を視野に入れた展開
- ・ 多様な交流・連携を通じた発展

地域にある資源・宝を活かし

子育てと市民の参加・交流の促進を通じて

元気で心安らぐまちをつくり未来へと継承する

## ■まちづくりの理念

合併により誕生した木津川市は、3町の個性や魅力を受け継いで、市民、事業者、行政の協働により新しいまちづくりに育んできた。その結果、全国的な少子高齢化、人口減少の中で、「住みたいまち」として評価され、人口が増加し続けている。

これからの10年間は、「まちの成長期」として、これまでつくりあげてきたまちをさらに強く、たくましく育て、その魅力や個性を伸ばし、さらに将来世代に引き継いでいけるような持続可能な地域づくりをめざす。

## 豊かさを感じられる住みよさがある

- ・ 住む、学ぶ、働く、遊ぶ、安心・安全のくらしが充実している
- ・ 人、組織、地域のつながりと相互扶助で地域課題の解決にとりくんでいる

## 新しい価値や魅力が常に生み出されている

- ・ 市民の感性、創造する力が育ち、活かされるチャンスがある
- ・ 市内外の交流・ネットワークによる地域づくりが進んでいる
- ・ 地域の自然・文化や立地環境が地域個性や産業に活かされている

## 人口が増加しており、地域に元気がある

- ・ 子どもが元気に産み育てられ、世代間のバランスが整っている
- ・ 市全体、地域毎の社会システムが最適化されている

## ■まちの将来像

〇〇〇〇の都市（まち） 木津川

## ■将来像案（事務局とりまとめ）

「子どもの笑顔が未来に続く 幸せ実感都市 木津川」  
子育て支援NO1のまちとして、子どもの笑顔が溢れるまちは、みんながいきいきと輝いて元気に暮らせるまちであり、みんなが木津川市に住んで良かった、住み続けたいと幸せを実感する都市である。そして想像力にあふれた子どもたちが木津川の未来を切り拓いてくれるという思いを込める。

「笑顔が輝く まちが輝く 未来創造京 木津川」  
木津川市の持つ「歴史・文化」「自然」「人」「学研都市」など多くの強みや個性を活かし、一人ひとりがそれぞれの個性や力を発揮することを「笑顔が輝く」と表現し、一人ひとりの力が相まって、まちの魅力がさらに高まり、地域も人も元気に輝く魅力あるまちを創り上げる。それにより、自分たちのふるさと木津川としての愛着が芽生え、木津川に住むことに誇りをもち、その思いが次世代へとつなぐことを「未来創造京」という言葉に込める。

「人をはぐくみ未来(ゆめ)に輝く学研都市」  
協働によるまちづくりは、まちと人を創り出し、将来に向け、持続的発展するまちとなる。将来を未来(ゆめ)とすることで、誰もが望むまちとしたいという思いを込めた。また、木津川市を特色である学研都市とすることで、木津川市らしさをPRする。

「悠久の歴史(とき)に、現在(いま)を刻み、その未来(さき)へ」  
恭仁京という都があったという、全国でも数少ない自治体である。その歴史から育んできたそれぞれの資源や自然に磨きをかけ、子や孫の世代までつないでいくという思いを込めたもの。